

## 1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	西 直子 矢野 雄也
学力向上推進員	教諭	山口 美和
委員	指導教諭(総合支援課長) 教諭(学校生活課長) 教諭(教育総務課長)	藤本 豊春 宮本 小百合 長尾 裕子

## 2 学力・学習状況における現状分析、目標等

## 【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得  
 (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成  
 (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

高 等 部 生 徒 の 状 況		
よ さ	学校生活全体を通して、提示された課題に真面目に取り組む姿が見られる。また、年間を通して地域貢献活動に継続して取り組むことで、自分の役割を果たす経験を深めることができ、主体的に活動に参加する姿勢が育ってきている。	課題 中学校時に不登校傾向、もしくは不登校であった生徒が3割程度在籍しており、入学時は成功経験の不足から、学習活動に自信を持ちにくい。また、発達障がい併せ有する生徒も多く在籍しているため、個々の実態に応じて、自らの希望や夢について自己理解・自己受容ができるように働きかけが必要である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		達成状況
①就業体験実習をととして、生徒一人一人が自らの良さや課題を客観的に見いだす力を育むことができる。 ②地域貢献活動(3S活動)の目的を意識して取り組むことで、地域を元気にする力(役割を果たす力、協力する力等)を身につけることができる。		①就業体験実習後のフィードバックにおいて、生徒が一人2つ以上、自分の良さや課題を挙げることができる。 ②地域を元気にするために身につけたい目標のリストから生徒自身が選択し、目標を設定できる。また、自己評価の達成率が80%以上になる。
		評価
具体的方策(教員の取組)		取組状況
①-1就業体験実習を計画・実施し、実習先の評価表や教員が「今後あなたに求めること」等を提示し、フィードバックを行う。 ①-2進路決定に向けた生徒の自己理解を進めることを目指す研修会を年2回以上実施する。 ②目標リストと目標設定・評価シートを生徒自身が活用できるよう提示する。		①-1 年間2期間以上の実習を実施し、実習先での反省会と年間2回の就業体験実習報告会を実施する。 ①-2 生徒が自己理解を進めるための手立てを他の教員と共に考え、実践することができたと答えた教員が80%以上となる。 ②全ての地域貢献活動において生徒自身で目標設定と評価ができる。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

